

『DOBOT AudiR8LMS』

Yoshiaki Katayama

Roberto Merhi Muntan

Seiya Jin



大会概要

2023年 SUPER GTシリーズ 第2戦

大会名称

2023 AUTOBACS SUPER GT Round2 FUJI GT 450km RACE

開催日時

5月3日 水曜・祝日（予選） 5月4日 木・祝日（決勝）

開催サーキット

富士スピードウェイ（1周：4.563km）

所在地：静岡県駿東郡小山町中日向694

同時開催レース

2023 FIA-F4 選手権 第1戦・第2戦

Porsche Carrera Cup Japan 2023 第3戦・第4戦

主催

富士スピードウェイ株式会社

FISCOクラブ

株式会社GTアソシエーション

公認

国際自動車連盟（FIA）

一般社団法人 日本自動車連盟（JAF）

認定

株式会社GTアソシエーション

後援

経済産業省/国土交通省/自由民主党振興議員連盟/静岡県小山町/御殿場市/裾野市/公益社団法人 静岡県観光協会/小山町観光協会/一般社団法人 御殿場市観光協会/一般社団法人 裾野市観光協会



◆ 参戦体制

■ ドライバー



片山 義章
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日
出身地 愛知県
身長 168cm
体重 69.3kg
血液型 RH+O



ロベルト メリ ムンタン
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日
出身地 スペイン
身長 178cm
体重 70kg
血液型 RH+O



神 晴也
SEIYA JIN

生年月日 2000年10月30日 (満22歳)
出身地 大阪府
身長 175cm
体重 70kg
血液型 Rh+O

■ 監督 太田 雅文
Masabumi Ota

■ スタッフ チーフエンジニア Mattia Oselladore
クルーチーフ 小倉 啓悟
チーフメカニック 片岡 恵人

■ スポンサー

DOBOTジャパン株式会社	エルアイピーリゾート株式会社
ザーレン・コーポレーション株式会社	城東電機株式会社
TON E株式会社	ブランデュース株式会社
高新自動車学校	株式会社リブレ
ニチアス株式会社	見田工作株式会社
エバー株式会社	株式会社PACIFIC RACING TEAM
コスモ開発株式会社	朝日金属株式会社
株式会社安藤・間	有限会社大和工業
岡田金属株式会社	有限会社ます徳
株式会社ジョイフル設備	アクセル有限会社
カトー機械株式会社	ORIC
株式会社デジテックエイチピー	SPIN OFF
株式会社マイティミズタニ	
MIDTOWN BBQ	
ウエスタンデジタル合同会社	
青山エレベーター株式会社	

◆ 予 選

天候 晴れ

コース状況 ドライ

気温 20℃ (GT300クラスQ1開始時)

路面温度 32℃ (GT300クラスQ1開始時)

予選開始 15時15分 (GT300クラスQ1-A組開始)



4月の開幕戦では、目まぐるしく変わる天候に翻弄され、実力を発揮しきれずに終わったTeam LeMansのDOBOT Audi R8 LMS。その鬱憤を晴らすべく、チームは第2戦の富士大会に臨んだ。今回は、Aドライバーの片山義章、Bドライバーのロベルト・メリ・ムンタンに加えて、神 晴也をCドライバーとして登録し、100周、450kmのロングディスタンスに挑む。

GT300クラスでは、全戦でA、Bの2組に分かれてそれぞれ10分間のQ1を行い、各組の上位8台がQ2に進出する。富士スピードウェイで行われる第2戦には27台が参加し、#6 DOBOT Audi R8 LMSはA組で、まずはQ1突破を目指す。

#6 DOBOT Audi R8 LMS**予選結果：12位 (予選Q1ベストタイム：1分35秒840／ロベルト選手)**

初夏らしい爽やかな晴天に恵まれた富士スピードウェイでは、予選当日の午前中に公式練習が行われ、#6 DOBOT Audi R8 LMSは7番手タイムをマークする好調ぶり。Q1突破への手応えを掴んだチームは、片山にQ2進出への望みを託す。

15時15分にスタートしたQ1のA組では、片山が計測3周目のタイムアタックで1分35秒987をマークして暫定トップに。さらにタイムアタックを続ける片山だったが、スローペースのマシンに行く手を阻まれ自己ベスト更新には至らなかった。それでも片山のタイムはトップからコンマ290秒遅れの3番手。自身初となるQ1突破を果たした。

16時5分からのQ2では、ロベルトが計測3周目に1分35秒840のベストタイムをマーク。Q1と異なるタイヤを用いたことなどで、ポジションは12番手に甘んずるが、決勝に向けて大きな手応えを感じる予選結果となった

◆ 決 勝

天候 晴れ

コース状況 ドライ

気温 22℃ (スタート時)

路面温度 38℃ (スタート時)

決勝レース開始 13時30分

レース予定周回数 100周 (約450km)

#6 DOBOT Audi R8 LMS (片山&メルヒ選手)

決勝結果：7位 (所要時間：2時間34分33秒503=92周消化/ベストラップ：1分37秒590=ロベルト選手)



前日に続き、五月晴れの青空に恵まれた富士スピードウェイでは、13時30分から決勝レースが行われた。今回のレースでは、2回の給油が義務づけられ、また、ひとりのドライバーの周回数が3分の2を超えてはならないというルールが設けられる。さまざまな作戦が考えられる中、まずはロベルトが第1スティントを担当した。

パレードラップとフォーメーションラップのあと、ローリングスタートにより戦いの火蓋が切られたレースは、序盤からロベルトが果敢な走りを見せてくれた。6列目、12番グリッドからスタートしたロベルトは1周目に5つポジションを上げて7番手でメインストレートに戻ると、その後も2周目に6位、3周目に5位、5周目には3位に順位を上げ、速いペースで周回を重ねていく。

31周目にトップに立った#6 DOBOT Audi R8 LMSは、34周を終えたところで1回目のピットストップを行うが、第2スティントも引き続きロベルトがステアリングを握ることに。7位でコースに復帰したロベルトは、第1スティント同様、見事な走り続けて徐々にポジションをアップ。62周目にはふたたび首位に立ち、64周終了後にピットイン、片山にマシンを委ねた。

最終スティントを託された片山は、8番手でコースに戻り、一時は5位までポジションを上げるが、交換したタイヤが路面状況にいまひとつマッチせず、終盤には苦戦を強いられることに。それでも86周目以降は7番手を守り、そのままレースはフィニッシュ。#6 DOBOT Audi R8 LMSは、Audi R8 LMSがこれまで苦手とされてきた富士で、今シーズン初入賞を果たすこととなった。

第3戦の鈴鹿はAudi R8 LMSが得意とするテクニカルコースだけに、この勢いのまま念願の表彰台を狙う。

片山 義章 選手のコメント

今回は練習から調子が良く、Q1は私が担当して、Q2のロベルトにつなげるということになりました。走り出すと、マシンの仕上がりはとても良く、ドライビングも満足のいくものでした。さらにもう1周アタックしようとしたのですが、遅いマシンで前が詰まってしまって。それがなければ2番手タイムが出せたかもしれないと思うと、それが心残りです。それでもQ1を初めて突破できたのは、とてもうれしいです。

決勝は、第1、第2スティントを担当したロベルトが見事な走りでポジションを上げてくれましたが、私のスティントでは路面温度が下がり、それを見越して選択したタイヤがいまひとつマッチせず、順位を落とすことになりました。そのあたりは今後しっかりと検証して、次の鈴鹿に生かしたいと思います。それでも、得ることがたくさんあったレースウィークだったとポジティブに考えています。なにより、「R8が不得意な富士」というイメージは払拭できたと思いますし、鈴鹿や他のサーキットではもっと上位を狙える自信につながりました。

ロベルト・メリ・ムンタン 選手のコメント

開幕戦の岡山では思う存分走ることができず、結果も良くなかっただけに、この富士で走るのを楽しみにしていました。

今回は、私自身、満足のいく走りができたとと思いますし、チームも素晴らしい仕事をしてくれたおかげで、良い結果を出すことができました。表彰台を獲得できるレベルのパフォーマンスだったと思いますが、ピットストップの戦略の違いなどから表彰台には届きませんでした。

そのあたりをしっかりと見直して、次の鈴鹿では表彰台を獲得したいと思います。

日本での生活もエンジョイしています。富士山に登ったり、自転車で駆け回ったり。日本の食事大好きです。第二の故郷のように思える日本で、良いレース結果を出すのがいまの目標です。

チームコメント

前戦の岡山が厳しい結果になっただけに、この第2戦で仕切り直そうと、気合いを入れて富士に臨みました。すると、公式練習から良い感触が得られて、Q1は3位。Q2では12位にポジションを落としましたが、ロングランになる決勝に向けて、十分手応えはありました。

前半はロベルトがある程度順位を上げてくれると信じていましたが、あそこまでやってくれるとは思いませんでした。ピットストップも予定どおりで、ミスなくできました。ただ、片山のスティントでのタイヤ選択や、ライバルたちとのピットストップ戦略が違ったことなどにより、7位まで順位を落としたことは、今後の課題です。あまり時間はありませんが、次の鈴鹿までに富士でのレースをしっかりと検証し、鈴鹿ではさらに上のポジションでレースを終えられるよう頑張りたいと思います。



